



三 条 税 務 署 長 賞

『税金と幸せ』

三 条 市 立 第 二 中 学 校 三 年 五 十 嵐 まゆ

いからし

この間、家でテレビを見てみると「世界幸福度ランキングでフィンランドが七年連続一位。」という内容のニュースが目飛び込んできた。私はこのことに興味を持ち、フィンランドについてネットで調べてみることにした。すると、フィンランドでは消費税が二十四パーセントと、日本の二倍以上であることが分かった。しかし、この消費税に国民の約八割が納得しているという。では、なぜこれだけ消費税が高いのに、国民は納得し、それに加えて、世界一幸せな国で居続けられるのか。その理由には、美しい自然や犯罪率の低さなどもあるが、一番は、充実した医療制度や学ぶことに関しての手厚いサポートがあるからこそだと思う。フィンランドでは、国民から集めた税金を十八歳未満の医療費の免除や大学院までの学費の免除などに使っている。私は最近、「私立高校に通いたければ学費が高いから諦めた。」という言葉を目にした。それに対して、フィンランドではこのようなことを考えず、自分の行きたい学校に行けるのだからとても良い制度だと思っ

では、日本ではどのように税金が使われているのか。調べてみると、義務教育や医療、介護や道路の整備などに使われていることが分かった。義務教育では、一人あたり一年間に、小学生は九十七万五千元、中学生は百十二万二千元の税金が使われている。私はこのことを知ったとき、一人の学生のためにこんなにお金が使われているのか、と驚いた。また、今までは何も考えずに使っていた、教科書やクロムブックも税金が使われたものだから、これからは今よりも大切に、そして感謝の気持ちを持って使おうと思った。医療では、病気やけがで病院に行ったときの医療費の補助として使われる。私の祖母は間質性肺炎を患っていた。この病気は、すぐに治るものではなく、入院をくり返していたため、お金が沢山必要だったのでないかと思った。しかし、両親に聞いてみるとそんなに沢山のお金を使っていたわけではないという。その理由は、難病医療費補助制度だ。この制度のおかげで祖母は長期にわたって治療を受けることができ、私は祖母に中学校の制服を見せることができて、とても嬉しかった。しかし、現在の日本には国民の助けになるような制度がある一方で、不要不急の施設を建設することや、約七百人の、他国よりも多い国会議員に多額のお金を支給するためにも税金が使われている。また、最近ではニュースなどでよく公文書偽造という言葉聞く。公文書偽造には、嘘の報告書を作り、脱税をしようとするものがある。私は税金が本当に必要とされているところで使われたり、国民が納得して税金を払えるような制度になれば、日本は幸せな国へ、一歩近づくのではないかと思う。

